



所長の部屋



今さら聞けない病気の常識 : ⑪ 硬膜外血腫

京都府南丹保健所長 時田 和彦

今回は硬膜外血腫です。硬膜下血腫と似ていますが、違いを覚えると理解しやすいと思います。後者は次回に説明します。

硬膜外血腫の原因は、半数は交通事故、4割が転落事故で、残りがその他の原因です。9割方の症例に、頭蓋骨の骨折を伴います。骨折により、頭蓋骨とその内側にある硬膜との間にある、動脈や静脈が切れて、血腫すなわち血液のかたまりが出来ます。血腫が出来るだけの場合と、脳の損傷、すなわち脳挫傷を伴う場合があります。

脳挫傷を伴う場合は、しばしば脳挫傷による症状が主になり、受傷当初から意識障害がある場合が多いです。脳挫傷を伴わない場合は、血腫が大きくなるに従い、瞳孔の左右差や意識障害などの症状が強くなります。注意が必要なのは、血腫が静脈の損傷によって発生する場合で、血腫はごくゆっくり、数日から数十日かけて増大する場合があります。

治療方法は、状態や血腫の大きさなどにより異なります。状態が悪過ぎる場合や、逆に血腫がごく小さくて症状も軽い場合は、手術せずに経過を見ます。血腫がある程度の大きさで症状もある場合は、血腫を除去する手術を行います。手術を行うのであれば、早い方が良いでしょう。これらの治療以外に、救急室などで頭蓋骨に孔を開けて、血液を吸い出す治療を行う場合もあります。

次回は硬膜下血腫についてです。